

一般社団法人日本社会福祉学会  
第71回秋季大会報告

第71回秋季大会 実行委員長 渡辺 裕一(武蔵野大学)

2023年度の日本社会福祉学会第71回秋季大会は、10月14・15日の2日間にわたり、「世界の幸せをカタチにする社会福祉学の挑戦」と題して開催されました。特に2日目の午前はいにくの雨となり、ご参加の皆様には大変ご不便をおかけいたしました。新型コロナウイルスの感染拡大以降では久しぶりの完全対面での秋季大会開催となり、繰り返しご挨拶をいただいた空閑浩人会長、伊藤嘉余子委員長をはじめとする大会運営委員会や大会ヘルプデスク(国際文献社)の皆様、口頭発表分科会の全体統括者・司会者を快くお引き受けくださった先生方のご指導・ご協力により、滞りなく大会を運営できましたことに心より感謝申し上げます。今年度は、中国と韓国との学術交流の幹事年でもあり、国際学術シンポジウムの開催、開会式・情報交換会でのご挨拶をいただけましたことは大変幸運でありました。お越しいただいたご来賓の先生方にも、厚く御礼を申し上げます。

大会校企画シンポジウム「SDGsにおける人権問題への対応の検証と社会福祉学の挑戦」においては、斎藤幸平先生(東京大学・准教授)から「SDGsの批判的検討と人権問題のこれから」と題して基調講演をいただくとともに、シンポジストとして藤田孝典先生(NPO法人ほっとプラス・理事/聖学院大学・特任准教授他)、児島亜紀子先生(大阪公立大学教授)、南野奈津子先生(東洋大学教授)、Vince岡田先生(Hawaii Pacific University・Assistant Professor)(ご報告順)、コメンテーターとして引き続き斎藤幸平先生にご登壇いただき、コーディネーターは本学の木下大生がつつめさせていただきました。多くの参加者の方から、難しくも大変「挑戦」的なテーマを取り上げながら、まともも含め興味深いシンポジウムとなったとお声をいただくことができました。これも基調講演をいただいた斎藤幸平先生をはじめ難しいテーマにともに挑戦すべくご登壇くださった先生方のおかげと認識しております。本当にありがとうございました。

大会校企画シンポジウムの他、初日(14日)には、研究支援委員会によるスタートアップシンポジウム「初期キャリア研究者のニーズに答える支援のあり方」、留学生と国際比較研究のためのワークショップ「社会福祉研究・教育における多文化共生(2)~韓国・中国における留学生、少数民族、文化的マイノリティ等の多様な学生の受け入れ及び対応の現状と課題~」、2日目(15日)には、国際学術シンポジウム(学会企画シンポジウム)「幸せな生活を支えるために社会福祉に求められるものは何か。」、学会企画セッション「社会福祉学における国際共同研究を考える」が開催されました。

大会の運営に当たっての私たち実行委員会の「挑戦」は、抄録作成等におけるCOIの表記の徹底にはじまり、使用するデータ(PDF)の事前登録制によるスクリーンへの投影、スクリーンに投影する内容や貼り付けるポスターの内容の事前チェック及び印刷による資料配布の禁止、大会バッグ・紙媒体でのプログラムの配付の廃止、ポスター発表時間の独立化(口頭発表・シンポジウム等と重複しない)、情報交換会の開催、ポスター発表会場や口頭発表会場での近隣施設との連携による菓子の販売、湯茶・コーヒーの提供をさせていただくなど、多岐に渡りました。

これらの取り組みにより、より持続可能であること、より多くの交流が生まれること、よりよく研究発表が促進されることを目指しました。結果、全体の参加申込者数は633人、研究発表の本数は口頭発表125件、ポスター発表37件、特定課題セッション2件(発表6件)をいただくとともに、情報交換

会は来賓の方も含め109人の参加申し込みをいただき、多くの参加者の皆様の研究発表や交流を促進することができました。大会終了後には廃棄される可能性の高い大会バッグや紙の資料の大幅な削減、抄録のチェック及び当日使用するスライド・ポスターデータの事前チェックによるCOI表記・倫理的配慮の徹底、ポスター発表の活性化などの成果をあげることもできました。

しかし、実行委員会の周知不徹底により、COIの表記がないことを理由とする抄録の差し戻しが多数発生してしまったことや印刷資料の配布禁止にもかかわらず印刷資料を配布してしまうという事案の発生及び複数言語を使用するセッションでの情報保障の問題、予想を超える人数の方がポスター発表に参加されたことによる会場での移動の困難及び時間の不足の問題、湯茶・コーヒーの提供の際にリユース可能なカップを使用することができなかったことや大会校企画シンポジウムやお弁当に添える飲み物にペットボトルのものを用意してしまったことなどの実行委員会の取り組みの不徹底に対する疑問、分科会が2つの建物に分かれての実施となったことによる雨天時の移動のしにくさ、会場案内の不足による不便など、反省を挙げればきりがありません。「持続可能であること」に対する本学の取り組みの本気度を問われる場面もありました。

ポスター発表が盛況で大変活発なディスカッションが行われていた一方で、発表者(司会者)と全体統括者のみとなってしまう口頭発表の分科会もあるなど、今後の秋季大会のあり方を考えさせられる場面もありました。お忙しい中、全体統括者をお引き受けくださった皆様からも、全体統括者を置く意味があるのかという厳しいご意見も頂くこととなりました。

このように数多くのご不便をおかけいたしましたこと、また不愉快な思いをされた方がいらっしまったことに、この場をお借りしてお詫び申し上げます。これらは大会実行委員長である私の不見識・理解不足によるものと認識しております。

さて、大会にご参加いただいた皆様からは、大会実行委員会スタッフである本学の学生・院生・スタッフ・教員への大変あたたかいお言葉も多数いただくことができました。具体的には、誘導の対応での積極的なお声掛け、ご要望をいただいた際の柔軟な対応、スタッフ間の連絡やチームワークの良さなどです。特にこの大会運営に取り組む機会を通して培われたチームワークは、今後の本学の宝となるものと思います。至らぬ点も多々あったことは重々承知しておりますが、大会実行委員会スタッフ一同、ともに力を合わせて第71回秋季大会の開催に取り組んでまいりました。今大会で徹底できなかった取り組みについては、頂いたご指摘を学びとさせていただき、今後の大会に引き継ぐことをもって「挑戦」を続けてまいります。

日本社会福祉学会第71回秋季大会にご参加・ご協力くださったすべての皆様に、心からの感謝を申し上げ、大会報告とさせていただきます。本当にありがとうございました。